

コロナ前後での趣味、 学業の満足度に関する研究

¹伊藤要登 ²菌部旭 ³毛利旭博 ⁴八木優翔 ⁵森一将

⁴非会員 文教大学 経営学部経営学科

B9R11021@bunkyo.ac.jp

¹非会員 文教大学 経営学部経営学科

B9R11088@bunkyo.ac.jp

²非会員 文教大学 経営学部経営学科

B9R11155@bunkyo.ac.jp

³非会員 文教大学 経営学部経営学科

B9R11160@bunkyo.ac.jp

⁵正会員 文教大学 経営学部

morik@bunkyo.ac.jp

本研究では、マスメディアの情報を鵜呑みにするのではなく、コロナ流行前後での学生の学業や生活状況の変化について調査を行い、学生の学業・趣味の満足度がどのように変化したか明らかにする。コロナウイルスが流行し、大学のリモート化が進むことによって、学生の生活・成績にどのような影響が現れたか。そして、リモート授業、あるいは対面授業の授業形態によって学生の生活に差はあるのか。この研究の読み手のメリットとして、学生の望んでいる授業形態を知ることによってより良い授業を提供することができるのではないだろうか。また、学業や趣味の満足度は上がっているのかアンケートを実施し調査を行った。その結果直接的な効果が分かる結果は得られなかったが、間接的に学業と趣味に関する満足度が上がるのが分かった。

Key words オンライン授業 趣味 学業

1. はじめに

本研究では、コロナ前後での学業の満足度、趣味の満足度はどのような変化があるのかを調査し、コロナウイルスは私たちの生活にどのような変化をもたらしたのかを明らかにすることが目的

である。コロナウイルスが流行し、大学のリモート化が進むことによって、学生の生活・成績にどのような影響が現れたか。そして、リモート授業、あるいは対面授業、それぞれの学生の学業、趣味の充実度は上がっているのかアンケートを用いて調査を行う。2020年に世界各地でコロナウイル

スが流行し、日本にも様々な影響を及ぼした。その影響は私たち学生にも及び、ニュース番組などの報道では良い印象を与えない点が多く報道されている。そこで私たちは実際に学生の趣味・学業の満足度を調査し、学生という層に的を絞って、プラスな影響をもたらしているか、マイナスな影響をもたらしているのかを正しく知ることで、現在の政策や授業形態が適切か否か検討したい。この調査を読んでいただきたい相手としては、大学関係者である。この研究を通じコロナウイルス流行後の学生生活の現状を知ること、学生にとってより適切な授業を提供する事ができるのではないだろうか。

2. 実験の概要と手続き

2021年11月に大学生の3～4年生49名を対象にアンケートを実施した。

このアンケートのうちコロナ前後での学業の満足度、趣味の満足度について調査を実施した。具体的には、オンライン授業を導入している大学での授業の充実度や趣味における生活の満足度について調べた。これらの質問は全て5つの選択肢を用意した。

学業に関する調査は出席率、成績、自宅での勉強時間の変化について調べた。

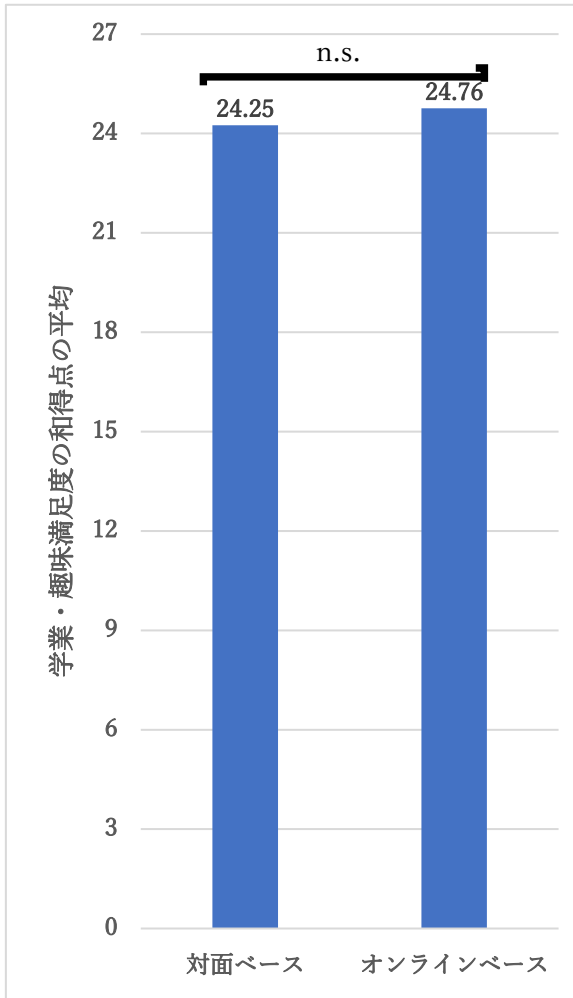
趣味に関する調査では、アルバイトの時間、趣味にあてられる時間、一ヶ月あたり趣味に使える金額の調査を行った。これらのアンケートを実施してコロナ前後での変化について調査をした。

3. 分析結果

まず、対面とオンラインでの学業満足度を比較したところ有意差は出ず、帰無仮説を棄却することができなかった(図-1)。この分析結果から言えることは、対面とオンラインという理由だけでは学業、趣味の充実度には繋がらずその他の理由によって満足度は変化することが分かった。

次に、オンラインベースの生徒のグループが趣味のある人が多く、逆に対面ベースの生徒の方グループは趣味がない人がオンラインベースのグループと比較して多かった(X-squared = 3.9843 p 値:0.0459) (図-2)。この分析から分かったことはオンラインベースの方が自由に使える時間が増え趣味に対する充実度が高いことが分かった。それと同時にアンケートからアルバイトの時間が増加したことも分かった(図-3)。

最後に趣味があるかないかでの生活に対する充実度について分析をした(図-4)。趣味がある方が充実度は高く生活が充実していることが分かった。一つ目の分析で学業に対する充実度での有意差は見られなかったが趣味があるかないかで学業の充実度も変化するのではないかと考えている。



t 値 : 0.42517 p 値 : 0.6734

図-1 対面とオンラインでの学業・趣味満足度の和得点の平均の比較

	趣味有	趣味無
オンラインベース	24	1
対面ベース	17	7

図-2 授業形態と趣味の有無

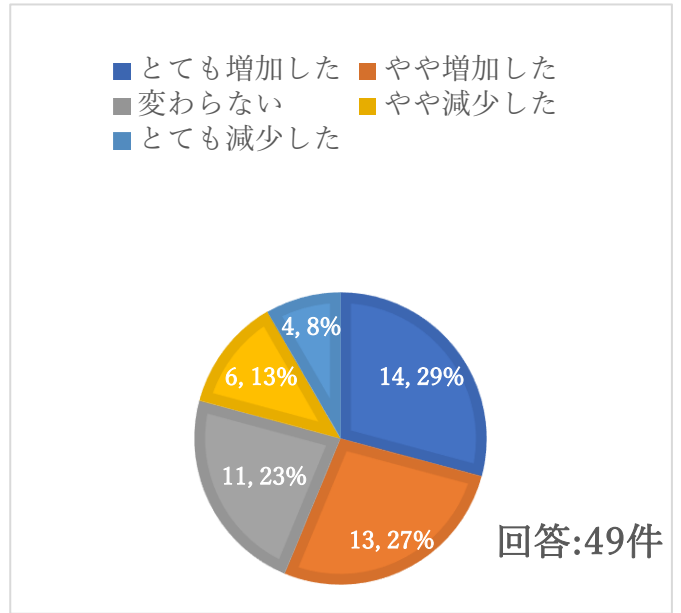
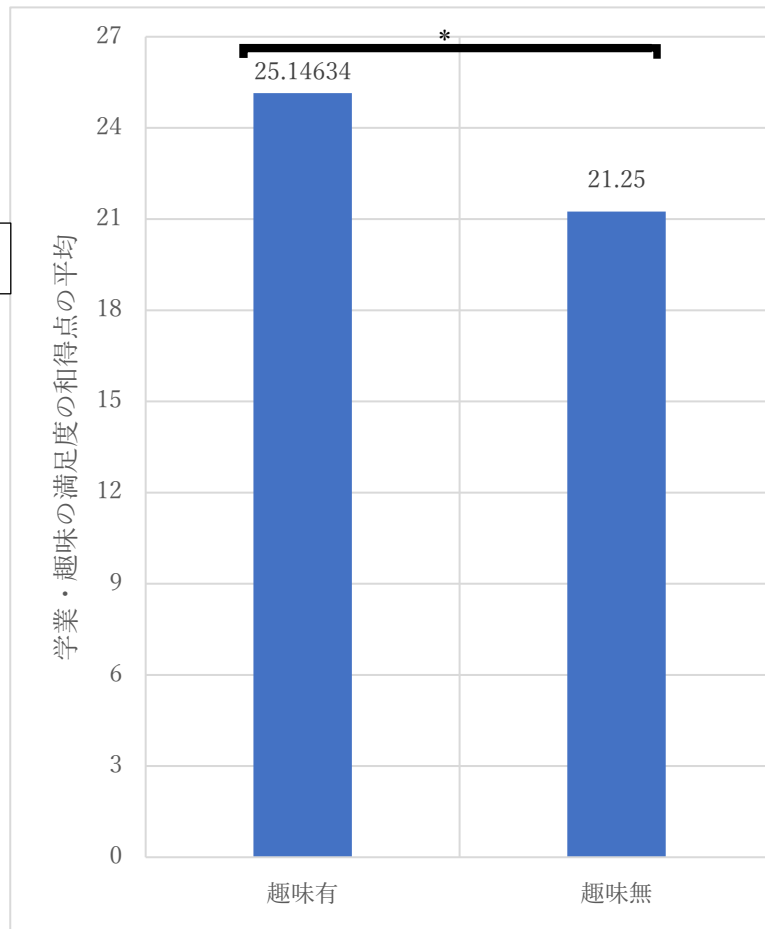


図-3 アルバイトの時間の変化



t 値 : 0.3515 p 値 : 0.04485

図-4 趣味の有無による学業・趣味の満足度の
和得点の平均の比較

4. 結論

本研究では対面ベースの授業とオンラインベースの授業をどちらも体験している3年生、4年生を対象としコロナ前後における学業と趣味に対するアンケートを用いて調査した。

対面ベースとオンラインベースでの学業に対する直接的な効果が分かる結果は得られなかったが、オンラインベースの授業にすることで通学時間が減り、時間の使い方を選択肢が生まれ、学業・趣味に対する充実度が上がることが分かった。